

<私から始める>

箴言14:31

国連が定めた「世界の食料問題を考える日」の「世界食糧デー」は毎年10月16日。
日本では2008年から10月を「世界食糧デー」月間とし、飢餓や食料問題について考え、
解決に向けて一緒に行動しようと、活動が開始された。

「すべての人と食べる幸せを分かち合える世界へ」今、その現状はどうなっているのか。
まずは、知ることから始まる。

食料が豊富にある人が、食べられない人に分けてあげたらいいの？

しかし、世界で生産されている食物は、80億人分が食べる分は足りている！

先進国が、その食べ物を奪ってしまっているというのが現状がある。

足りないから「分けてあげる」のではなく、「奪わない」。

毎日、私たちがあたりまえのように口にしている食生活が、世界の飢餓と関係がある。



寄るべのない者をしいたげる者は自分の造り主をそしり、貧しい者をあわれむ者は造り主を敬う。箴言14:31

「寄るべのない人」…身を寄せるあてがない。頼りにできる親類縁者がいない。

孤独であり不安である人たち。

寄るべのない人、貧しい人の世話をする。結果、それは神を敬うことになる。

あなたがたの神、主は、神の神、主の主で、偉大で、力あり、恐ろしい神、かたよって愛することなく、
わいろを取らず、みなしごや、やもめのためにさばきを行い、在留異国人を愛してこれに食物と着物を
与えられる。あなたがたは在留異国人を愛しなさい。あなたがたもエジプトの国で在留異国人であった
からである。 申命記10:17~19

「あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです」

マタイ25:40

「最も小さい者」は、何かをしてもらっても、お返しが全くできない人たち。

寄るべのない者に施しをするのは、主に貸すことだ。主がその善行に報いてくださる。箴言19:17